

# 400周年 見据え始動



熱心に資料に目を向ける会員の皆さん

電子版

ぎおん風

小倉祇園太鼓保存振興会会報 電子版第3号

■ 発行 ■

小倉祇園太鼓保存振興会  
北九州市小倉北区城内 2-1  
平成30年5月15日

## 平成 30 年度総会に 120 人

小倉祇園太鼓保存振興会は平成30年4月27日、小倉北区紺屋町の毎日会館大ホールで「平成30年度総会」を開いた。会員総数137（団体122、役員12、特別会員3）中、出席96名（団体89、役員5、特別会員2）、委任状21通（団体14、役員6、特別会員1）で、成立要件の過半数を満たし総会は成立した。

中村真人会長は、冒頭の挨拶で「今年は北九州市政55年、そして来年は祭り400周年を迎える。小倉祇園太鼓は一昨年、国選無形民俗文化財に指定された。現在、400周年の節目に国の重要無形民俗文化財指定を得られるよう、調査委員会が動いている。保存振興会は10委員会と、月1回の合同委員会で議論を積み上げ、安全、安心な祭りにするべく行政、小倉北署とも協力している。これまで通り活動に力を注いでほしい」と話した。

続いて報告事項として、①29年度派遣実績②30年度役員及び委員会三役、委員会業務③30年度祇園祭取り組み④400周年行事⑤調査委員会の動向と小倉城周辺環境整備事業—について説明が行われた。

### 委員会再編と新合同委員会

保存振興会は年明けから委員会編成を行った。これは2年に1回行うもので、全会員に所属委員会の希望を調査、10委員会に振り分けた。それに伴い、3月20日に新委員会の全体会議を行い、各委員会の三役（委員長、副委員長、書記）を選出した。ただし、委員長については400周年行事の継続性を持つため、全員が留任した。各委員会組織表は保存振興会のホームページ（会員ページ）参照。

# 祭り担う人材育成

## 議論ポイント

### ■協賛収入

初めてガイドブックを1万5000部発行した。104万円超の広告収入があった。さらに刷新したホームページにバナー広告として5件の協賛を得た。

### ■無許可団体と差別化

経費増となったが、祭りに会員全員にチーム名が入ったのぼりを配布して、無許可団体とは違うことをアピールした。また、据え太鼓披露会場の警備を強化して、無許可団体の侵入を防いだ。

### ■400周年行事

平成30年度は400周年行事3カ年プロジェクトの「ステップ」の年だ。祭りを担う人材育成に焦点を当てる。市民センターを中心に「太鼓塾」を開く。関心のある市民が参加出来るように活動していく。さらに

「体験山車」を製作し祭りを体験してもらう。リーフレット制作、グッズ開発・販売などで広くPR活動を展開する。PRのため祇園祭礼基金100万円を取り崩し、一般会計に繰り入れる。また、地域の関係団体を取り込んだ実行委員会を立ち上げて進めていく。

### ■小倉城周辺環境整備事業

小倉城が進めている城デラス建設で、今年度から大手門前の競演大会会場が小



ヨイヨイヤー！の恵比寿締めで今年の総会も無事終了！

文字通り側に16ほど移動する。また、紫川沿いのひまわりショップ前駐輪場跡にコメダ珈琲が新規開店する。据え太鼓披露会場の配置が一部変わる。

### ■調査委員会の動向

文化庁の調査委員会は、これまで70回以上、町内、団体などのヒアリングを行い、6回の会議を持った。今年度中に膨大な資料をまとめた報告書を作り、来年2月に文化審議会に答申する。来春にも重文か否かが決まる。

調査の中で、小倉祇園太鼓は「3拍子の太鼓芸が伝統」と、とらえられている。昨今、4拍子で演奏することが散見され、昨年の研修会でも取り上げ、いわゆる「4拍太鼓」を戒めた。会員一人ひとりが伝統を重んじ、400周年に立ち会える名誉を大切に活動してほしい。

## 質疑応答は以下の通り

【新馬借】30年度予算のTシャツ、ポロシャツの項目は数字合わせではないか。計算根拠がない。

（中山財務委員長）予算編成にあたり、各委員会からのヒアリング、昨年実績、コスト削減など、ありとあらゆる項目を精査してはじき出した数字だ。決して数字合わせではない。そもそもTシャツ、ポロシャツは受注生産がほとんどなので赤字にはならない。

【京町九十】年々参加団体が減少している。400周年、重文指定というが、少子高齢化で足下が揺らいでいる。一般市民を巻き込むような祭りに対するフォーラムを開催してどうか。また、7月になると戸畑祇園が小倉市街で打ち込みをしている。ユネスコ無形文化遺産登録されたいが、放置して良いのか。

（日高企画委員長）そうした議論は各委員会、合同委員会で以前からやっている。そこで出てきたのが太鼓塾だ。市民とともに小倉のまちの歴史を学んだり、太鼓の打法も学んできた。今年度はそれを実践に移すべく、体験山車を企画している。さらに祭りを継承する意味での400周年、重文指定だ。ぜひ委員会に出席して、もっと議論を深めてほしい。

（中村会長）博多祇園山笠、戸畑祇園大山笠の振興会メンバーと交流がある。少子高齢化に関しては、まったく同じ悩みを抱えている。隣の芝生は青く見えるが、どちらも少なからず問題を抱えながら、年々祭りを行っている。だからこそ私たちも誇りを持って、祭りを、伝統を守っていくことが大切だ。会員一人ひとりが考え、議論して、行動してほしい。戸畑の打ち込みについては先方に注意する。